

教職に関する専門教育科目 採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採点上の注意	配 点		
1	(A) 教育上差別 (B) 服務 (C) 体罰 (D) 研修		各3×4	24	
	教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること。	順序は問わない。 内容を正しくとらえていけば、表現は異なってもよい。	各4×3		
	保護者などの学校の関係者による評価(「学校関係者評価」)を行うとともにその結果を公表するよう努めること。 自己評価の結果、保護者などの学校の関係者による評価(「学校関係者評価」)の結果を設置者に報告すること。				
2	<ul style="list-style-type: none"> 授業の冒頭に当該授業での学習の見通しを児童生徒に理解させ、授業の最後に児童生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設けたりする。 児童生徒が家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり、学習した内容を振り返って復習したりする習慣の確立を図る。 	内容を正しくとらえていけば、表現は異なってもよい。 以下の2つの視点について書かれていること。 ・生徒に学習の見通しを持たせる具体例 ・生徒が学習したことを振り返る具体例	6		
3	「主体的な学び」 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる学び。	内容を正しくとらえていけば、表現は異なってもよい。	各6×3	18	
	「対話的な学び」 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び。				
	「深い学び」 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。				
4	<p>インターネット上のいじめは、外部から見えにくい・匿名性が高いなどの性質を有するため児童生徒が行動に移しやすい一方で、一度インターネット上で拡散してしまったいじめに係る画像、動画等の情報を消去することは極めて困難である、一つの行為がいじめの被害者にとどまらず学校、家庭及び地域社会に多大な被害を与える可能性があることなど、深刻な影響を及ぼすものである。</p> <p>また、インターネット上のいじめは、刑法上の名誉毀損罪や侮辱罪、民事上の損害賠償請求の対象となり得ることや、インターネット上のいじめが重大な人権侵害に当たり、被害者等に深刻な傷を与えかねない行為であること。</p>	内容を正しくとらえていけば、表現は異なってもよい。	10		
5	記号	正しい語句	記号と正しい語句がともに合っているものだけを正答とする。	各3×2	6
	①	安全な			
	②	規律ある			
6	相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすること。	内容を正しくとらえていけば、表現は異なってもよい。	各6×3	18	
	まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながるということ。				
	伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、伝えるべき内容を十分に蓄積しておくこと。				

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採点上の注意	配 点
7	<p>特別支援学校や医療・福祉などの関係機関と連携を図り、障害のある生徒の教育についての専門的な助言や援助を活用しながら、適切な指導を行うことが大切である。指導に当たっては、例えば、障害のある生徒一人一人について、指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画（個別の指導計画）を作成し、教職員の共通理解の下にきめ細かな指導を行うことが考えられる。</p> <p>学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活も含め、長期的な視点に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要である。このため、例えば、家庭や医療機関、福祉施設などの関係機関と連携し、様々な側面からの取組を示した計画（個別の教育支援計画）を作成することなどが考えられる。</p> <p>担任教師だけが指導に当たるのではなく、校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを指名するなど学校全体の支援体制を整備するとともに、特別支援学校等に対し助言又は援助を要請することなどが考えられる。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p> <p>以下の3つの視点について書いていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携による専門的な助言や援助を活用すること。 ・長期的な視野に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うこと。 ・学校全体の支援体制を整備するなど、計画的、組織的に取り組むこと。 	18